

数日前の天気予報では、当日(4月16日)は曇天で一
時雨との事で、ご出席頂きます皆様にご迷惑をおかけす
ると心配していましたが、その心配は全く無く、胸を撫で
下ろした次第でした。

当日、主宰者の松本新太郎G様が、急遽ご体調を崩
されましたので、GE岡部泰鑑様にお出まし頂き、RI第
2660地区第1組のインターシティー・ミーティングを開
催させて頂きました。この書面で失礼とは存じますが、
松本G様の一日も早いご快癒を念じています。

当日は基調講演のみとさせて頂きましたが冒頭に、去
る3月11日の東日本大震災で死者・行方不明者27,000
人を超す未曾有の被害者に黙祷を捧げ、併せて一日も
早く被災地の復旧、復興を念じました。

また、福島第一原子力発電所事故の一刻も早い収束
と事後処理を円滑に進めて頂きたく、全員心を一つに致
しました。

そして、いよいよ本日のメインであります基調講演へと
移りました。我が国は少子高齢化が急速に進み、健康
で健やかに老いることの願いが叶わないのが現状です。
そして、老人の死後処理もせず、年金を詐取する荒んだ
世の中、そして老人介護等、心を痛める切実な問題に直
面しています。

当日は、そんな中で、介護にスポットを当て、何かのヒ
ントを与えて戴きたく、実体験に立って『支える側が支え
られる時』サブタイトルとして「認知症の母が教えてくれ
たこと」と言う事で、認知症の母親に寄り添いながら、命
や認知症を題材に多くの作品を作り続けられ、また講演
活動を行っておられます、児童文学作家「藤川幸之助先

生」をお迎えして、講演をたっぷり2時間、休憩タイムを
とらずに語って頂きました。先生は多くの詩集を出版さ
れておられ、NBC長崎放送が制作した「マザー・詩人
藤川幸之助が綴った母との瞬間」が民間放送連盟賞最
優秀賞を受賞され、文化庁芸術祭参加作品となる等、
ご活躍されただけあって、感銘しながら参加者一同、胸
を熱くして拝聴いたしました。

認知症の人を受け入れるという行為、人生を理解す
るという事、痛みを自分の事として感じる事から始まっ
て、母への葛藤、戸惑いに蓋をせず、吐き出す事、そして
何より相手の変わるのを待つのではなく、自分から変え
ていかねばという事など、喋ることもない、いや出来ない
母に愛を込めて接し、愛を込めて行動することで、愛の
支えがどんなものなのかと、時には目頭が熱くなるような
詩の朗読を拝聴し、出席者一同、大いに感じるところが
あったのではないのでしょうか。

最後に、人を支えるということは、人に支えられること
を結びとして、講演を終えられました。

参加者の皆様は、2時間余の間、殆ど中途退席なく、
熱心に拝聴されておられた姿に、実り多いIMだったと
自負しております。有難うございました。

本当に皆様のご協力に感謝感激し、お礼を申し上げます。

最後になりましたが、岡部GE様、高島GN様、池尻
代表幹事様、そして第1組の会長様、会員の皆様のご協
力、ご指導によりIMを終えることが出来、改めてお礼申
し上げ、IMの報告と致します。

